

夢とロマンにあふれた空間クリエイト

株式会社 空間設計

代表取締役 及川政志氏

訪問者 藤田美保子

建築というのは建物内部の空間だけでなく、建物と建物の空間から、果てはスカイラインまでを包括する空間をクリエイトするもの——そんな大きな発想からネーミングされたのが東京都中央区の㈱空間設計ですが、この事務所のユニークさは名前ばかりではありません。何しろ「東京デイズニールランド」を機会に誕生し、今まで手がけた仕事の大半は「東京デイズニールランド」関係のものだといえますから、夢とロマンにあふれた空間のクリエイターの第一人者でもあるのです。

「フォトプラザ」等も新に完成

藤田 空間設計というのは耳慣れない言葉ですけど、よく見かける設計事務所とはお仕事の内容が違うのですか。

及川 いえ、設計の仕事自体に変わりはありません。ただうちの場合、事務所ビルや商業ビルといった建物も、もちろん手がけているのですが、全体の仕事の六七割は、㈱オリエンタルランドさんが所有、運営している「東京デイズニールランド」の施設だという点が変わっているといえるでしょうね。

藤田 「東京デイズニールランド」の施設というと、どんなことを手がけていらっしゃるのでしょうか。

及川 「東京デイズニールランド」はゲスト（お客さま）が遊ばれるためのテーマパークそのものと、それに付随する倉庫、メンテナンス工場等のサービス施設があります。その両方の建物を手がけているわけです。

藤田 「東京デイズニールランド」がオープンしてからもうかなりになりますよね。今でも引き続きお仕事があるわけですか。

及川 オープン以降も年々いくつかの新規の施設が作られていますからね。この三月に

も「フォトプラザ」と「アリスのティーパーティー」という施設が完成したばかりです。

藤田 どういうものなのかしら。

及川 「フォトプラザ」というのは、記念写真スタジオです。団体客の方々の記念撮影をするためのものです。「アリスのティーパーティー」というのは、デイズニール映画「不思議の国のアリス」の一シーンをテーマとしたカップがクルクル回るアトラクションです。

藤田 ああ、目が回りそうなあれですね（笑）。ああいう遊戯物全体をお作りになるんですか。

及川 いえ、ティーカップのような乗り物自体はよそで作ります。私共では乗り物を覆う容器物としての建物部分を担当しているわけです。

藤田 なるほどね。「東京デイズニール

ド」の施設の中で、一番最初に手がけられたのは何でしょう。

及川 和食の「れすとらん北斎」が初仕事でした。そもそも我々は、「東京デイズニールランド」の設計に計画当初から携わっていて、建設からオープンまでの過程の中で独立して事務所を作ったものですから。

藤田 そうしますと、「東京デイズニールランド」と一緒に歩いていらしたわけですね。

及川 そうですね。今年でちょうど三年目になります。

最高のものを提供する

藤田 この事務所をお始めになる前は、どこかよそにいらしたのですか。

及川 ええ。ずっと梓設計という事務所でお働いていました。

藤田 それにしても「東京デイズニールランド」と共にというのはすてきですね。そもそも「東京デイズニールランド」というのは、アメリカのデイズニールランドとほぼ同じようなものを日本に作るとういうことで始められたのでしよう。

及川 そうですね。従って、「東京デイズニールランド」の施設はデイズニールの基本計画に基づいて全てが構成されており、デイズニールの設計スタッフの指導のもとに、彼等と共同して仕事を進めています。カリフォルニアの「デイズニールランド」、フロリダの「ウォルトデイズニールワールド」に続く第三のデイズニールテーマパークです。コンセプトは同じですが、それぞれが特徴を持っています。

先ほどふれました「れすとらん北斎」や「フォトプラザ」は日本だけにしかない施設なんですか。

藤田 日本にしかない施設を、二つともこちらで手がけていらっしゃるというのは素晴らしいですね。この「東京デイズニールランド」のお仕事をなさっていて、ほかの建築との違いというか、何か特に特徴的なことというのをおありですか。

及川 デザイン面でも運営面でも訪れたゲストに最高のものを提供するんだという考え方が徹底していますね。ですから我々としても、経済優先の一般の建物に比べて仕事のやりやすい環境にありますね。また、デイズニールランドの中で仕事をしていると建築というのは、形だけでなく空間がいかに大切かというのを感じますね。

藤田 こちらのお名前にびつたりですね。及川 面白い名前だといわれますし、間違えて読まれることも多いんですよ（笑）。「すきま」とか「そらま」とか読む方もいらつしやいますしね（笑）。でも、そういう読み方もあながち的はずれではないと思いますよ。われわれは建物内の空間ばかりではなく、建物と建物の間の空間、すなわちすきまもクリエイトしていくわけですし、もっというならば「そらま」、つまりスカイラインも大事にしていこうと考えているわけですからね。

藤田 なるほどね。そういう意味でも、「東京デイズニールランド」のお仕事はこちらにびつたりといえますね。

及川 そうですね。「東京デイズニールランド」では特に、今いったような面が大事にさ



藤田美保子さん

対談中の及川社長



対談中の及川社長



及川政志社長

れていますね。建物と建物のつながり一つにしても、いかに個性の違う建物を自然に配置させるかに、それはもう、大変に気を配っているんです。でも、建物と建物をどうつないでいくかということは、これからの設計には重要な要素ですし、都市設計ということでも町の中にも見られる傾向なんです。

「東京デイズニールランド」以外でも活躍

藤田 そういえば、渋谷の町はバルコができてからすっかり変わりましたね。バルコ、バルコⅡを建てるに際して、バルコ側があの周辺の土地をそっくり買収して、街並自体を設計したそうです。あれなどはこれからの建築のいい例だと思いますけど、いずれはそういう形のお仕事をなさるおつもりなのじゃありませんか。

及川 ええ。少しでも、機会があればそのような形にもっていきたいと思っています。いまもちょうど、大きな病院の増築に際して、従来の施設にも手を加えて全体のつながりを重視したりということはやっていますが、街並に対して大々的にやってみたいという気持ちは強くありますね。

藤田 最近では消費者のニーズが多様化していますけど、建築のほうでもそれは同じだとかがついています。たとえばマンションなどの住宅の場合でも、お客さまから思いもよらないような要望が出されることもありますか。

及川 ありますよ。お客さまのほうがつつと想いをめぐらしていますし、お客さまそれぞれが違った環境にある特殊解ですから。でも、こういうニーズとのギャップは大歓迎ですね。こちらが思いもよらないことであっても、頭から不可能だとか、おかしいとか決めてはダメです。十分に検討して、何とか

ニーズに応えられる方法はないかと取り組むところから、新しい発想も生まれてきますからね。

藤田 アフターケアも、このお仕事にはつきものでしょう。

及川 この仕事の宿命といえますね。何年たっても、追いかけられますから(笑)。前の事務所時代のお客さまからも、年中相談を受けています。でもこの仕事は、そういうつながりこそ大切ですし、前の事務所を離れてもやはりあの人に相談したいといっていただけるようでない、むしろ困りますね。

未来に意欲

藤田 そうですね。それが信用ということでものね。ところで今後のお仕事の開拓としては、やはりデイズニールランド関係が中心になりそうですか。

及川 「東京デイズニールランド」の仕事は面白いですが、今後共、ずっと続けていきたいと思っていますが、もっと他の仕事の割合も増やしていきたいと思っています。

藤田 今の量のままで、それが全体の三〜四割になるくらい、ほかのお仕事が増えればいいわけね。

及川 そうなれば申し分ありませんね(笑)。

藤田 それにしても、夢のあるいいお仕事ですよ。最後にこれからの夢をぜひおきかせください。

及川 今一番やってみたいのは先ほど、藤田さんが言われたような街並全体をコーディネートするような仕事と劇場ですね。小劇場でいいからこれを核として街並を考えていくような仕事をぜひ手がけてみたいと思います。藤田 これからも頑張ってください。